

大阪・関西万博が開催中です



徳島県

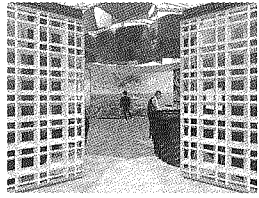
～きたぞ、万博！いくぞ、徳島！～



大阪・関西万博 公式キャラクター
ミッパツ
©Expo 2025

4月13日に大阪・関西万博が開催されました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。世界中から160近くの国や地域、9つの国際機関が集まり、多彩なパビリオンや公式主催イベントを通じて、「いのち」をテーマに様々な未来を体感することが出来ます。

なお、徳島県も、関西パビリオン内に「徳島県ゾーン」を出展しているほか、魅力あふれる多彩なパビリオンを、オープニングセレモニーを開催しています。



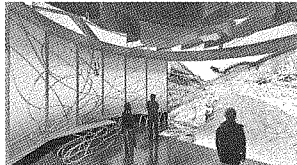
関西パビリオン「徳島県ゾーン」

テーマは「水とおどる」

徳島県ゾーンのテーマは「水とおどる」です。吉野川。その流れは時に氾濫を起こしましたが、徳島の人々は、洪水が運んできた土砂を藍染料（すくも）づくりにより上手に利用してきました。

「踊る阿呆に見る阿呆」という阿波おどりの掛け声からも感じられるように、しなやかに困難な状況を受け入れ利用することで、「新たな価値へと

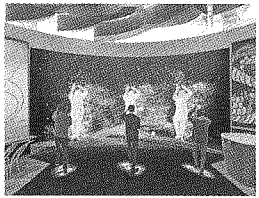
変えていく」徳島の有り様を「水とおどる」と表現し、空間デザインのテーマとしています。



「伝統工芸」の展示

3つのエリアで構成

徳島県ゾーンには「伝統」「現在」「未来」の3つのエリアがあります。伝統エリアでは、阿波指物や藍染め、阿波和紙など、徳島が誇る伝統工芸が一体となってアートな空間を構成しています。



プロジェクションマッピング

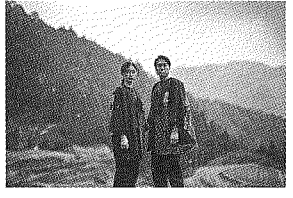
（これまで）
○4月30日～5月3日
万博会場内のEXPOメッセ「Wasee」において、徳島の文化と食を体感できる「阿波の国とくしま つむぐCAFE」を開催しました。

開催イベント

○4月30日～5月3日
万博会場内のEXPOメッセ「Wasee」において、徳島の文化と食を体感できる「阿波の国とくしま つむぐCAFE」を開催しました。

○5月2～3日
会場内各地で阿波おどりを披露し、3日のフィナーレではEXPOアリー

ナ「Matsuri」に約700名もの踊り子と鳴り物が集結し、1万人の観客とともに、壮大な「輪踊り」を完成させ、会場は熱気と最高の一体感に包まれました。



アテンダントユニフォーム



「世界が踊った日」
～多様性が織りなす踊りの輪 徳島の阿波踊り～
EXPO2025 OSAKA, KANSAI, JAPAN
2025.05.03

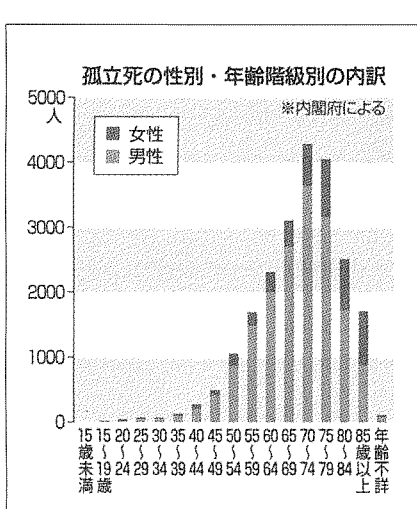
徳島老友新聞

発行者
徳島県老人クラブ連合会
TEL 088-625-0021
FAX 088-625-0052
E-mail info@awaroren.org
〒770-0943
徳島市中昭和町1丁目2番地
徳島県立総合福祉センター内
1部20円(送料込 90円)

徳島老友新聞
県老連ホームページ
www.awaroren.org

今月の行事	
県老連理事会	4日(徳島市)
芸能指導者研修会	12日(徳島市)
県老連評議員会・臨時理事会	24日(徳島市)

地域から高齢者の「孤立死」を無くそう



孤立死の性別・年齢階級別の内訳
※内閣府による
(内閣府「孤独死・孤立死の実態把握に関するワーキンググループ」最終報告より)

内閣府がこのたび「孤立死」した人の実態を初めて調査、2024年は全国で2万1856人に上ることが発表されました。「孤立死」は自宅に誰もみとられないことなく亡くなり、死後8日以上経過して発見されるケースと定義されており、ひとり暮らしの増加や人付き合いの変化などによる現代社会が抱える問題の一つとなっています。

（六田 靖子）
お茶を飲みながら、慰められたときであった。

先頃ご主人を亡くしたばかりの友人にも「春」を味わって貰いたかったのだ。
老いた病人介護の大変さ、それも85歳を過ぎた身にはどんなに大きな負担だったか、私にはよく分かる。せめてひとときのささやかなプレゼントのつもりであった。

3月半ば、快晴。庭に出ると、微かに甘い香りが漂ってきた。目の前では、満開の梅の枝が風に揺れている。

近頃は、現金を支払って買い物をすることが少なくなってきた。お店ごとにカードをつくり、チャージして、カードで支払うのが便利になっている。財布から現金を出すことは、カードにチャージする時

苑説

カード

ある日、パン売り場に引張っている。母親は、「ちよっと待って。おつりもらうから」と。おつりもらうて何？」「おつりはおつりよ」

安川 久子

し、自分で現金持参で買い物もしたことがないらしい。私自身、カードへのチャージ以外、現金の出し入れは、滅多にない。「おつり」を頂く買物、最近どこかであったかな、と考えたが思い出せない。道ばたに並んでいる飲み物等、買ったことがないせいもあるが、



「内町のぞみ会」の活動について

「人生100年時代を元気に、楽しく過ごす」をモットーに

徳島市内町のぞみ会会長 豊井 泰雄

内町のぞみ会は、昭和31年11月10日に設立され、域の方々にもご参加いただき、現在、会員数は55名です。

私が出退後に入会しては、80名を超えています。月日がたつにつれ、会員数は30名を切るまでに

落語会、映画の上映会、忘年会や新年会をはじめとした食事を催すなど、できるだけ幅広く、会員の皆さんのコミュニケーションの機会を設けるよう努めています。



さあ！これからどうする

小松市野村寿会がやきクラブ 内藤 尚則

絵はがきで見るふるさと 246

那賀川名所 仁宇渡船場

・明治末期撮影
・那賀郡加茂谷村北條陣笠堂発行



画面は那賀郡驚敷町の仁宇・阿井と小仁宇を結ぶ仁宇の渡しである。阿井川河口付近の那賀川本流で運航していた。左端に渡船が接岸し、中央では馬を洗っている。背景に阿井小学校の屋根が遠望できる。昔から交通量の多い渡しのため、大正4年に岡田式渡船を導入し、輸送量が増大した。同14年には舟を並べた上に木板を敷いた

4月24日(木)、あわぎんホールで、恒例の市町村老人クラブ連合会会長・事務担当会議



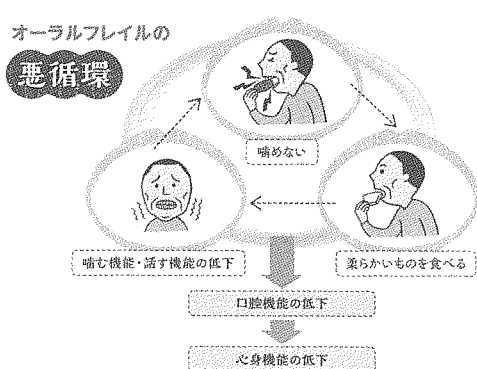
6月4〜10日は「歯と口の健康週間」です

「歯みがきで丈夫な体の基礎づくり」

加齢にともなう、歯や噛む力などの口腔機能が衰える状態を「オーラルフレイル」と言います。

「オーラルフレイル」になると、食物を食べ(栄養を摂り)にくくなるとともに、滑舌が悪くなると会話がおっくうになり、人とのコミュニケーションが思うように取れず引きこもりがちになるなど、心身機能の低下にも繋がります。

毎日の歯みがきやうがい、口の中を清潔に保つとともに、定期的な歯科検診で歯の状態や噛み合わせをチェックしてもらいましょう。



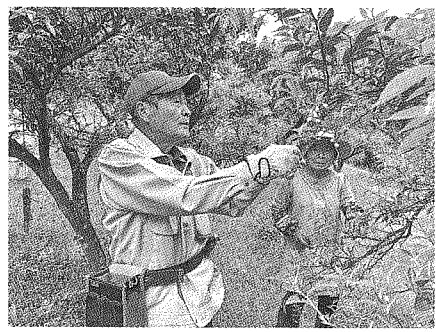
わがクラブのイチ押し☆

つるぎ町みづほ第6クラブ

柚子畑

佐古 正幸

私達のクラブでは、毎年、柚子の手入れや収穫をやっています。1年間の手入れと言え、1、2月は枝の剪定をし、3月は驚の鳴き声などを聞きながら、何とも言えない気持ちで肥料を散布しています。4、5月は下草刈りをして、6、7月は、他の地区では青玉の収穫をしている所もありますが、私達の地区ではやっていません。8月も下草刈りをして、9月には肥料散布をし、10月上旬から11月下旬までは、猫の手も借りた位、朝の4時起きで忙しい毎日が続きます。12月には、お礼肥料と言って「来年も沢山実がなりま



北島町北島いきいき倶楽部 他町との交換研修会を経て

会長 音澤 興夫

去る2月25日、北島町で池田町老人クラブ連合会と交換研修会を開催しました。2か月前に先方から打診を受け、当初初めての交換交流研修会を開催する運びとなった。

当日は、少し寒かったものの快晴に恵まれ、遠方からの訪問者を迎え入れる側として一安心！一時間ほどプロジェクトを用いて双方が活動報告を行い、質問や意見を交わした。共に減少する会員をいかに維持させるか討議するも、なかなか良

い案も出ず、これからの課題とした。また、今回は町老連同士の交流会でしたが、次は女性部会でしませんか？との声に、双方より拍手が上がった。続いて本日のメイン、囲碁ボール交流へと移り、皆の視線はコートへ一直線！池田町の方にはマイナーなようで、興味津々の様子だった。囲碁ボールは、本町では最も馴染みある競技である。簡単に言えば、碁盤に見立てた専用マットで行う五目並べだ。事務局が大まか



減ってしまった頃、会の代表者に就任してしまいました。それでは、どうすればよいかと考え、
一、毎月一度の役員会であったのを、全員参加の定例会にする。
二、〈健康で長寿〉の3本柱
①人とのつながりを大切に！
②バランスのとれた食事を！

生きがい活動をめざして

三好市三野町中央老人クラブ 北原 英雄



三野町老人クラブ連合会は7つの単位クラブから構成されており、我が中央老人クラブは、三野町中央部に点在した会員により運営されています。当クラブの昨年度の実施内容として、「初笑い大会」「グラウンドゴルフ大会」「ボッチャ大会」

「百年会」なんと笑みのあふれる会名でしょう

松茂町丸須寿康クラブ 田中 耕二



私は、男社会の仕事だったため、入会した時、女性と、それも初会の人と自由に話が出来る大好きな会になりました。人に云われてするのでなく、自分から進んで行動すること、協調性を

③無理のない適度な運動を！
を、常に意識した事業活動に取り組み、意見を提案し、新しい出発をしました。それから3年がたちま

今回は三好市長が地元の方ということもあり、飛び入り参加をしていただいて大変盛り上がりまして。そんな一方で会員の高齢化が進んでおり、新規会員の加入を望むところ

「人は城」と言いますが、いくら堅固でも少数では守り切れません。80代の残存部隊として、60代、70代の方々に話をしていくのですが、私達はまだ仕事を持っている、まだ老人ではないというお答えです。老人会を「百年会」に改称したい気持ちです。

今年も梅雨の季節を迎えました。梅雨は恵みの雨をもたらしてくれる一方で、車の運転にとても悪条件が重なるため、事故が発生しやすいです。

雨天時は、車の窓やミラーに付く雨滴や、窓の曇りによって視界が悪くなりますし、雨音のせいで周りの音も聞こえにくくなります。前後・左右の安全確認をいつも以上にしっかりとしましょう。

また、路面が濡れていると滑りやすくなります。急ハンドルや急ブレーキは避けて、車間距離を十分に取って、速度は控えめにしましょう。

雨天時に視界が悪くなるのは自分の車だけでなく、他の車や歩行者、自転車も同じです。薄暗いときは昼間でもライトを点灯させて、自分の車の存在に気づいてもらうようにすることも大切です。

警察相談専用電話 #9110 (プッシュ回線) 徳島県警察本部 交通安全課

長寿の秘訣 交通安全 6



読者文芸

6月号

短歌投稿数
俳句投稿数
川柳投稿数

40首
80句
64句

8月号
メ切日
6月30日
(必着)

短歌と川柳は自由題、
俳句は当季雑詠とします。



老友歌壇

自由題

日向 海砂選

老友俳壇

当季雑詠

西本 潤選

老友柳壇

自由題

和田健史選

白木蓮の萌芽矢のごと青空へ空き家の庭で凜とかがやく
(三好) 小西 樂恵
〔評〕青空に向けて、白木蓮の咲いている様子をみごとに詠まれている。花の香も漂ってきて、「わたしはここよ。」と話しかけているように思われる。

還暦を過ぎた息子のマラソンを紙面にみつけれ思わずニヤリ
(海陽) 森口 豊子
年の暮れ見つけた小さきロベリアを見事に咲かせ亡き妹の花
(那賀) 上野ユリコ

五人共色の違いしランドセル赤と黒のみ時代遙かに
(鳴門) 中川百合子
月日経ち亡母の生きざま見習って七十路半ばの暮らしに生かす
(東みよし) 手塚都樹子

足早に白きマスクの群れの過ぐ官庁街の早春の朝
(北島) 松浦 勝江
「ありがとう」此の五文字は忘れない挨拶交わし心安らぐ
(阿南) 吉本 文男

無人とて健気な花よ夕暮れの隣家の庭にアジサイの咲く
(松茂) 田中 耕二
米高騰備蓄米出し安定と発表するもなぜか米無く
(鳴門) 辻 加米一

来る度に曾孫寄り来て握手する胸にピンクのバラ咲く如し
(勝浦) 溝内喜美代
総身に桜吹雪を浴びながら去りゆく春に我が身かさねる
(板野) 坂東 泰子

笑うこと少ない老いの春炬燵なぜかなつかし寅さんを見る
(東みよし) 井関久美子
境内にただ一面のいちよう花この美しさにしばし見とれる
(三好) 谷口 宮子

路線バス眉山が笑う窓のそと絵画のように近くにせまる
(板野) 和田 寿子
思い出は回す心の糸車 山川眺め嬉しさ数え
(鳴門) 高田 治美

我が口に入る食べ物手作りす 祖母の指先まじゆつ師のごと
(海砂)

山桜生家底なるダムに散る
(阿南) 東條 明宏
〔評〕山桜が散っているダムの底は、かつて生家のあった所。そこで暮らした父母やその他の思い出が蘇る。淡々と表現しているが、その奥に大きな悲しみがある。
黄水仙さびしき庭にはほえみて
(美馬) 藤村 昌子

放牧の牛の涎やうらけし
(北島) 高橋 孝夫
定まらぬ弥生なかばの濯ぎ物
(徳島) 四宮 富子
入学児消えて疲弊の進む村
(北島) 松浦 勝江

畦塗れば見違えてくる水田かな
(阿南) 吉本 文男
ひとり欠けふたり欠けたる花見客
(北島) 山本 節子
花見酒みんなにこにこほろ酔いに
(三好) 女鹿 英子

青き目の娘遍路は足軽し
(吉野川) 久保 義文
鶯に励まされつつ畑仕事
(上勝) 平井 弘子
己が背に花をのせたる池の鯉
(那賀) 石原 律子

初蝶の風に流され藪の中
(三好) 山下 明俊
満開も命短き桜かな
(鳴門) 辻 加米一
花満開それだけでよし今日の日は
(小松島) 江川 啓子

古里の山に浮びぬ花の雲
(上板) 牧野マサミ
花吹雪肩にのりくる汽車の旅
(鳴門) 中川百合子
藤垂るやお目を細める観世音
(つるぎ) 加藤フサ子

藤棚や村起しなるコンサート
(阿南) 繁木 良子
退院を迎えてくるるライラック
(阿南) 中西 純枝
整然と並びし早苗水光る
(海陽) 森口 豊子

山頂へ若葉日毎に広がりぬ
(佐那河内) 丸野ユキエ
卒寿なり萌ゆる若葉に励まされ
(松茂) 田中 耕二
緑さす櫺一際光りおり
(那賀) 岡内 貞夫

白藤の光の雫こぼしおり
(潤)

失言を悔いて揉み消すバカ笑い
(阿南) 野村 敏子
〔評〕「揉み消すバカ笑い」に風刺がある。失言を笑ってごまかすことは政治家に多いが、一般人にもある。失言そのものより、それをウヤムヤにしようとする根性に焦点を当てた観察眼が鋭い。夢を追う追えど追えども遠い夢
(東みよし) 手塚都樹子

贋作の二文字よぎる美術館
(北島) 松浦 勝江
ハグをしてみんな帰った三回忌
(海陽) 森口 豊子
面接に話弾んだでも落ちた
(阿南) 東條 明宏

空に鯉川の魚も眺めてる
(藍住) 中山清一郎
生活の姿が見えるレジの籠
(徳島) 吉田 聖子
便利さの陰で多くを失った
(三好) 谷口 宮子

出迎いの夫にデイの手を引かれ
(美馬) 藤村 昌子
歳とれば夜の長さをもてあます
(上勝) 平井 弘子
小鳥さん又来ておくれ狭い庭
(鳴門) 高田 治美

耕して使った鋤を杖にする
(阿南) 吉本 文男
黄砂降り都会並みです春霞
(鳴門) 辻 加米一
初孫や村の入口職立て
(鳴門) 中川百合子

春なのに花粉と黄砂恐くなり
(東みよし) 井関久美子
あるじ留守独りぼっちの居間広し
(鳴門) 笠井 千恵
たまにはよし女天下の食事会
(那賀) 西 英子

戦場に届けこの桜の平和
(那賀) 島尾美津子
米寿過ぎ余生ゆるりと華で生き
(北島) 山本 節子
朝食後炬燵で二度寝する至福
(阿南) 上野ユリコ

反省をするにも少し酒がいる
(那賀) 上野ユリコ
(健史)

文芸に親しんでもらうために

徳島老友新聞別冊「文芸に親しむための
手引き・作品集」を発刊しました。

本紙の創刊当初から設けられている「読者文芸」欄については、毎月多くの文芸愛好者に投稿いただいているところですが、このたびさらに多くの方々に文芸に親しんでもらおうと、各選者の先生方の監修、ご協力のもと「文芸に親しむための手引き・作品集」を発刊しました。

本冊子では短歌や俳句、川柳の基本的な作り方やポイントの説明、作品づくりの参考として、読者文芸欄でこれまでに取り上げられた秀句・秀歌の中から選りすぐりの作品を紹介しています。

日々の創作活動の参考に、またこれから文芸に挑戦しようとする初心者の方々の参考書として、もご活用いただければと思います。

※冊子は県老連の他、市町村老連にもございます。直接お越しいただくか、送料をご負担いただくことでお送りすることも可能です。詳しくは県老連までお問い合わせください。

(電話) 088-625-0021

